

## 1

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

みそらは、担任の入江先生におこられた仕返しに、先生のつばを友人のねねと割ってしまいます。クラスでは、つばが割れたのは風か猫のせいだろうということになりました。

みそらは、<sup>①</sup>先生に悪いことをした思いでいっぱいだった。

放課後、みそらは校庭の裏のゴミすて場に行ってみた。

すてられてしまったつばのかけらを探そうと思った。探して、くつつけることができるとは思わなけれど、かけらがどうなっているのか気になった。

けれど、ゴミすて場に、すでにかけらはなかった。もうとくに収集車に持っていかれてしまったみたいだった。

空はどんよりもっていて、いまにも雨がふりだしそう。いつこうに晴れない、暗く灰色のつゆ空。

「雨もふりそうやし、いやな感じ」

みそらは低くため息をついた。

と、今はもう使われていない焼却炉<sup>しょうきょろ</sup>のかげから、太ったおばちゃんのがそつとあらわれた。

「なんやの、<sup>注イ</sup>しんきくさい」

おばちゃんは、太った身体にあう、ゆったりとした白いワンピースを着ていた。

白いワンピースのすそをゆらしながら、おばちゃんはみそらの前にやってきた。

だれかのお母さんかな、とみそらは思った。

「この前もね、<sup>注ロ</sup>しかってん。今のあんたと同じため息。ええ年したおじょうちゃんが、割れたつ

ばのかけらがめて」

おばちゃんは、ちらつと横目でみそらを見ながらそう言った。

「それって、<sup>②</sup>入江京香先生？」

みそらはきいた。

「ああ、よっこいしょ」

おばちゃんは質問には答えずに、大きなおしりをどすんとついて、積まれたブロックの上にすわった。白いワンピースがよごれてしまうのなんて、おかまいなしというふうだった。

みそらはもう一度きいた。

「先生、悲しそうやった？」

「そうやねえ。右も左もわからん新米先生は、弱虫、泣き虫やった」

と、おばちゃんは言った。

（先生、泣いてたんや）

みそらは下を向いた。

<sup>注イ</sup> しんきくさいいじ  
れったい。

<sup>注ロ</sup> しかってん  
し  
かつたんだよ。

「あんな、わたしな」

みそらは、おばちゃんに、つばを割ったのは自分だと話そうとした。ずっとだまってきたけれど、もうだれかに話してしまわなければ、<sup>③</sup>苦しくてたまらなかった。

おばちゃんは、みそらの話をささげるように言った。

「やつてしまったことは、もう元にはもどれへん。けどな、これからのことは、あんたしだいや」

みそらが顔をあげると、おばちゃんはまっすぐに、みそらを見つめた。

だまつたまま、みそらが泣きそうな顔を見ると、おばちゃんはすつと目をそらし、

「あらあら。こんなとこにペットボトルすてたら、あかんがな」

と、紙くずのゴミのかごから、からのペットボトルをひろった。

「ペットボトルは再生資源。リサイクル、リサイクル」

おばちゃんは、ぶつぶつくり返した。

みそらは、おばちゃんのひろった二リットルサイズのペットボトルを、ぼんやりながめていた。

（これからのことは、あんたしだいやつて言われても、どうしたらいいん？）

「リサイクル、リサイクル」

おばちゃんは、まだぶつぶつ言っている。

（リサイクル？）

みそらは、あ！と思った。

ひらめいた。

「おばちゃん、それ、ちょうだいっ」

みそらは、おばちゃんからペットボトルをもらうと、ランドセルの中をさぐった。そして、今日の

工作の授業で使ったカッターナイフをとりだし、それでペットボトルの頭のところを切りとった。

「どう？ リサイクルの花びん」

みそらは、おばちゃんに、頭を切りとったペットボトルを見せた。

「ええんちゃう」

と、おばちゃんが言った。

「次は、えっと」

それから、みそらは、ゴミすて場のすみに咲いているあじさいの花に目をやった。

あじさいの花は、まだところどころしか色づいていなかった。黄緑色の花が色づくには、あと少しという感じ。

おばちゃん言う。

「それでも、ええんちゃう」

「そうかな。しかたないな」

みそらはカッターナイフで、黄緑色のあじさいを三本切って、ペットボトルにさした。

（こんなん、入江先生、許してくれるかな）

<sup>④</sup>こんなことでは、許してくれないかもしれない。でも、こんなことでも、やらないよりはましかもしれない。

「行ってくる」

ふつさりとした花をゆらしながら、みそらが歩きだすと、おばちゃんが声をかけた。

<sup>⑤</sup>「ゆつくり行きや。ゆつくりやで」

「ん？」

みそらがわからない顔をしていると、おばちゃんは、

「うち、この学校のゴミすて場をもうずいぶん長く護<sup>まも</sup>ってきたんやで」

と言った。

みそらは、おばちゃんの言う通り、ゆつくり歩きながら教室に向かった。

いや、自然と足どりはゆつくりになった。

（許してくれるかな。あかんかな）

そんなことを考えながら、一步一步そろりそろりと。

すると、少しずつ、あじさいの花が色づいてきたのだ。

そろりそろり歩くにつれて、黄緑色の花も、そろりそろり青く色づいてくる。

教室近くになると、あじさいの花はみごとに、水彩<sup>すいさい</sup>絵の具の青と赤をたつぷりの水でといて作ったような、微妙<sup>びみょう</sup>な色合いのむらさき色の花になっていた。

「わあ」

みそらは感激しつつ、とちゅう水道で、ペットボトルの花びんに水を注いだ。

花は水をもらって、いきいきよこんでいるみたい。

「よいしょ」

五年二組の教室の戸をがらとあける。

教室にはだれもいなかった。

そうじも終わって、窓もしめきられていたせいか、空気もわつとしていた。

みそらは両手で、ていねいにあじさいのペットボトルを持ち、先生の白いつばのあった場所、黒板の横<sup>たな</sup>の棚<sup>な</sup>にかざった。

しめきっていると空気がこもって、花がかわいそうな気がした。

だから、さいごに少しだけ、猫も強い風もだいじょうぶなくらいに、少しだけ窓をあけて、みそらは教室を出た。

教室を出ると、そこにはなんと、入江先生が立っていた。

「わ、わわわ」

みそらは、ことばにならない声を出した。

（なんで、なんで先生がおるん?!）

⑥ みそらはもうびっくりして、先生から逃げるようにかけだした。

「まってー、ねえ、まってー」

うしろから先生の声がする。先生は追いかけてくる。

みそらは必死で走った。

走るのが苦手なみそらだったけれど、歯をくいしばって走った。

先生の気配がすぐうしろにあった。

止まったら、つかまってしまう。

(どうしようー)

みそらは頭の中がパニックになった。つかまったら、つばのことをきかれるのかもしれない。

「わーん、ごめんなさいー」

みそらは思わず大きな声でそう言いながら、逃げかえった。

楠章子「神さまの住む町」より

【一部に表記の変更があります。】

問一 線①「先生に悪いことをした思い」とありますが、このようなみそらの気持ちの風景として描かれているところがあります。その一続きの二文を文中からぬき出し、最初の五字で答えなさい。【句読点を含む】

問二 線②「入江京香先生」のことを別の言い方で表したことを二つ、文中からそれぞれ十二字でぬき出して答えなさい。

問三 線③「苦しくてたまらなかつた」とありますが、このときのみそらの気持ちの説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分の行いをだれかに告白することで、少しでも罪を軽くしたいと思っている。

イ 自分のしたことを後悔し、だまっていることに後ろめたさを感じている。

ウ 早く自分の行いを告白したいのに話をさえぎられて、つらく感じている。

エ 自分の話をだれにも聞いてもらえず、一人でたえることの孤独を感じている。

問四 線④「こんなことでは、許してくれないかもしれない」とありますが、

I 「こんなこと」とはどんなことをさしていますか。解答欄の言い方にあうように、二十五字以内で答えなさい。【句読点を含む】

II みそらはなぜ「許してくれないかもしれない」と思っているのですか。解答欄の言い方にあうように答えなさい。

問五 線⑤「ゆっくり行きや。ゆっくりやで」とありますが、おばちゃんはなぜみそらにそのように言ったのですか。解答欄の言い方にあうように、二十五字以内で答えなさい。【句読点を含む】

問六

線⑥「みそらはもうびっくりして、先生から逃げるようにかけだした」とありますが、み

そらが先生から逃げ出した理由を説明した、次の文の□に入る適切なことを、文中から二十四字でぬき出し、最初と最後の五字で答えなさい。

〈入江先生に□と思ったから。〉

問七 文中から読み取れるおばちゃんの説明として適切でないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア さりげなく助けの手をさしのべてくれる、やさしい人物。

イ 人の意見を聞き入れない、がんこな人物。

ウ 明るく、前向きな考え方をする人物。

エ 周囲を気にせず、自分のペースで物事を行う人物。

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

植物の葉っぱは、光を利用して、食べ物をつくっている。この能力<sup>④</sup>は、すばらしい。しかし、葉っぱがその能力<sup>⑤</sup>を発揮するためには、種子が光の当たるところで発芽しなければならないだろう。植物が食べ物をつくるためには、光がいるからである。

「もし、種子が光の当たらないところで発芽してしまったら」と考えてほしい。発芽した芽生えは、「光が当たらないから」と言つて、光の当たるところへ移動できない。もしそのまま光に出会えなければ、その芽生えは、枯れてしまう。だから、種子は光の当たるところで発芽しなければならないのだ。

ところが、私たちは、小学校の理科で次のような実験をしている。A「二つの小さな容器の底に水を含んだ綿を置き、ダイズの種子を蒔く。二つの容器の一方は、光の当たる明るい窓際に置き、もう一方は、光が当たらない真つ暗の箱に入れる。そのケツカ、部屋が暖かければ、光が当たつても当たらずとも、種子は発芽する。」

この実験から、「種子は、適当な温度、水、空気（酸素）の三つの条件が満たされれば、発芽することがわかる。同時に、「種子が発芽するのに、光が当たる必要はない」ことを示すものである。」

たしかに、発芽するために、光が当たる必要のない種子がある。小学校での実験に使われるダイズやインゲンマメのように、多くのマメ類の種子は真つ暗な中で発芽する。また、家庭でカンタンに栽培できるカイワレダイコンの種子も、暗黒で容易に発芽する。種子を買つてきて、真つ暗な中で発芽させてみると、なるほど、「種子の発芽に、光が当たる必要はない」と納得してしまう。

しかし、これらは栽培植物である。栽培植物は、発芽したあと、光が必要なら適切な光を人間によつて与えられる。それゆえ、発芽の三条件が満たされれば、発芽してもよいだろう。

いっぽう、自然の中を自分の力で生きていかなばならない植物が光の当たらない場所で発芽したら、どんな運命をたどるかは、容易に想像がつく。発芽した直後の芽生えは種子内に「チヨゾウ<sup>⑥</sup>」していた養分で、しばらく成長する。しかし、その後は光合成によつて栄養をつくらねばならない。光が当たらなければ光合成ができず、自分で栄養をつくれなから、やがて枯れてしまう。

自然の中を、自分の力で生きていくためには、「発芽後も成長できる光が当たっているか」を見きわめねばならない。「光が当たらない場所では、発芽しない」というA性質を、身につけていなければならぬ。

「種子が発芽するのに、光が当たる必要はない」ことを示す実験は、容易にできる。しかし、その逆である、③「発芽するために、光が当たる必要がある」ことを示す実験も、その気になれば容易にできる。

たとえば、レタス（品種グランドラビッツなど）の種子を買つてくればよい。シソやミツバの種子でもよい。シャーレを二枚用意して、水を含んだ綿を敷き、その上に種子を蒔く。一枚は光の漏れな

い暗黒の箱か缶に入れる。もう一方は、光の当たる場所に置く。

数日後、光の当たっているシャーレを覗くと、ほとんどの種子が発芽しているだろう。暗黒状態のシャーレを取り出すと、種子は発芽していない。それゆえ、「発芽するために、光が当たる必要がB」とわかる。

「種子の発芽に光がいるかいないか」の調査報告が、いくつかある。それらは、「植物の約七〇パーセントは、発芽するために光が当たる必要がある」というケツカを示す。発芽に光を必要とする身近な植物は、シソ、ミツバ、レタス、ツキミソウなどである。

「植物の約七〇パーセントは、発芽するために、光が当たる必要がある」ということなら、「約三〇パーセントの種子は、発芽するために、光が当たる必要がない」と思われるかも知れない。しかし、これらの種子たちも、完全な暗黒で発芽が促されるわけではない。長時間の強い光の照射によつて発芽が阻害<sup>注イ</sup>されるから、「暗黒のほうが、発芽するのによい」という種子であり、適切な光を照射した場合は、発芽が促進<sup>注ロ</sup>されるものが多い。

「種子が、太陽の光を感じるのか」と驚く人が多いだろう。しかし、種子も、光を感じるのだ。その土に水を与え、光を当てれば、多くの植物が発芽してくる。畑や野原の土を掘り返して耕すだけでも、多くの植物が発芽するだろう。

土中に埋まっていた種子が、発芽するのだ。土を掘り返せば、地中深くの暗黒の中に埋まっていた種子が、地面の表面近くに移動する。そこで、光が当たるようになった種子たちは、「発芽のチャンスがめぐってきた」と思つて、発芽する。自然の中では、地中深くの真つ暗な土の中で、多くの種子たちが光が当たつて発芽できるチャンスを待っているのだ。

田中修「ふしぎの植物学」より

【一部に表記の変更があります。】

問一 Aの実験について、

I 線①「二つの小さな容器」とありますが、それぞれの容器の実験を比較することによつて、どのようなことが分かるのですか。解答欄の言い方にあうように、二十字で抜き出して答えなさい。

II Aと同じ実験を、次の①カイワレダイコンと②シソの種子で行った場合、どのようなと考えられますか。最も適切なものを次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

A 光の当たる部屋の容器は発芽するが、真つ暗な箱の中の容器は発芽しない。

I 光の当たる部屋の容器は発芽しないが、真つ暗な箱の中の容器は発芽する。

ウ 光の当たる部屋の容器と真つ暗な箱の中の容器のどちらも発芽する。

E 光の当たる部屋の容器と真つ暗な箱の中の容器のどちらも発芽しない。

問二 — 線②「発芽の三条件」を答えなさい。

問三 — A に入ることばとして最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア おおらかな    イ 熱心な  
ウ 用心深い    エ ずうずうしい

問四 — 線③「『発芽するために、光が当たる必要がある』ことを示す実験」とありますが、

I 発芽するために光が当たる必要があるのはなぜですか。解答欄の言い方にあうように二十字以上三十字以内で答えなさい。

II この実験の他に、「光が当たることで、植物の種子が発芽する」ということを確かめるには、どのようなことをすればいいと筆者は考えていますか。文中の言葉を使い、解答欄の言い方にあうように答えなさい。

問五 — B には、「ある」「ない」のどちらかが入ります。あてはまる方を答えなさい。

問六 本文の内容とあうものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア インゲンマメやレタス、ミツバなどは、発芽に光を必要としない。  
イ 発芽するために光を必要としない種子も、適切な光が当たる方がよく成長する。  
ウ 植物の種子の中には、発芽のために光を当ててはいけないものもある。  
エ 発芽に光を必要としない種子は、種子に含まれる養分のみですと成長する。

問七 〰〰線④・⑤の漢字はひらがなに、⑥・⑦・⑧のカタカナは漢字に直しなさい。

- ④ 能力    ⑤ 発揮  
⑥ ケツカ    ⑦ カンタン    ⑧ チョゾウ

3 次の問いにそれぞれ答えなさい。

問一 次の1～5の熟語と同じ意味を表す言葉を次の中から選び、漢字に直して答えなさい。

- 1 手段  
2 短所  
3 同意  
4 返事  
5 進歩

- ・ オウトウ    ・ コウジョウ    ・ サンセイ    ・ ケッテン    ・ ホウホウ

問二 次の1～5の文の□に入る言葉をひらがなで答えて、ことわざを完成させなさい。

- 1 □の目にもなみだ  
2 えびで□をつる  
3 光陰□のごとし  
4 □とすっぽん  
5 転ばぬ先の□